

令和2年度国庫補助金

「広島頼家関係資料史料調査 地域活性化のための特色ある文化財調査・活用事業」実施概要

【事業の概要及び目的】

頼山陽史跡資料館が所蔵する「広島頼家関係資料(ひろしまらいけかんけいしりょう)」(通称 杉ノ木資料)は、広島藩の儒学者・文人で頼春水(らい しゅんすい)より始まる広島頼家に伝わった近世後期の著述稿本類, 文書・記録類, 書状類, 絵図類, 典籍類, 書画類, 器物類を中心とする資料群で, その数は 9,151 点に及びます。

広島頼家関係資料には, 春水や妻・梅颯(ばいし), 山陽とその子・聿庵(いつあん)を始めとする頼家の日々の暮らしや, 文人たちの交遊を詳細に伝えるものが多く, 江戸時代後期の広島藩の政治や文化, 生活を語る上で貴重な資料群です。

本事業では, これまで一部の内容が明らかにされているに過ぎなかった広島頼家関係資料の悉皆調査を行い, 全容を明らかにして日本史上の価値付けを行うとともに, 調査結果をもとに広く資料の公開・活用を図ることにより, 県民が優れた文化に親しむ環境づくりを目指しています。

【全体の事業期間】

平成 29 年4月から令和3年3月までの4ヵ年

【事業体制】

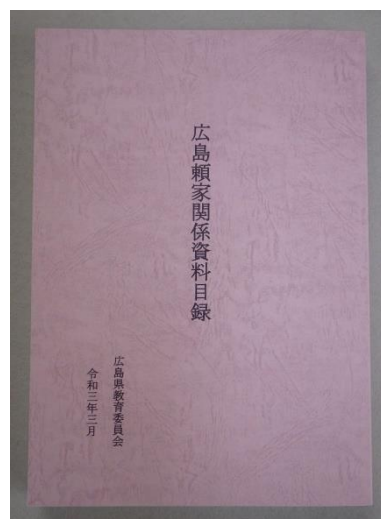
学識経験者からなる史料調査指導委員会及び文化庁の指導・助言のもと, 頼山陽史跡資料館職員が中心となって調査を進めました。

【本年度総事業費及び補助金額】

総事業費 4,000 千円, 国庫補助金額 2,000 千円

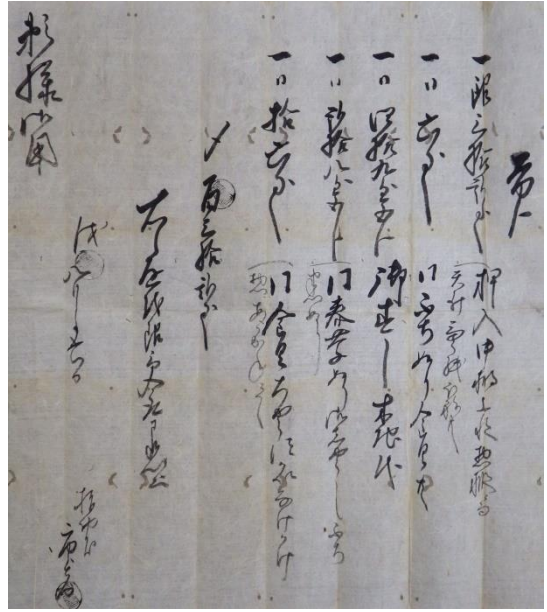
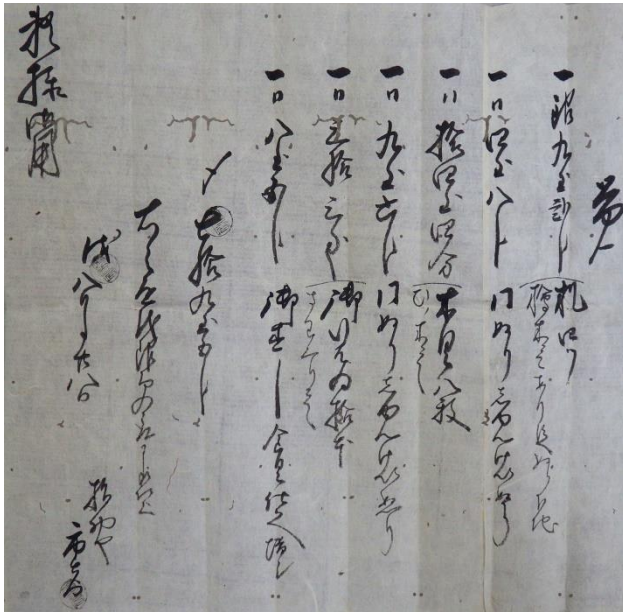
【本年度調査の概要】

事業の最終年に当たる本年度は, 文書・記録類, 書状類の調査を行うとともに, これまでに作成した調査カード等の見直しを行い, それらをもとに『広島頼家関係資料目録』を刊行しました。



○資料の整理・再分類

本事業に伴う調査の過程で、新たに内容・性格が明らかとなった資料の再分類を行いました。

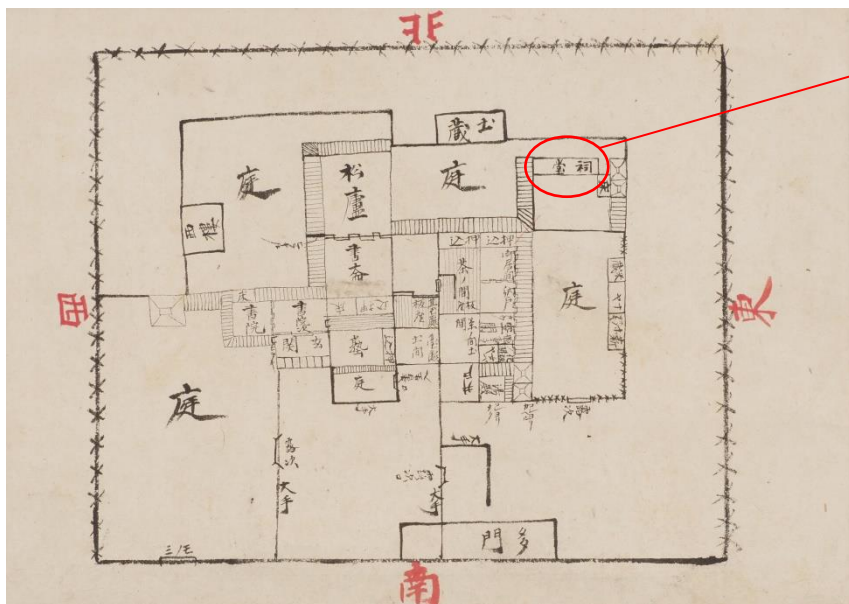


覚(庚戌の秋祠堂入用につき、文書・記録類、Ⅲ-392-1・2)

天明元年(1781)12月17日に広島藩儒に登用された頼春水は、翌年6月9日に西研屋町(にしとぎやちょう)に居を構えると、寛政元年(1789)12月16日に藩から袋町杉ノ木小路(ふくろまちすぎのきしょうじ)の今村平次郎の元屋敷を拝領し、翌年8月1日に転居するまでの間、西研屋町の屋敷で生活しました。

本資料は、これまで「西研屋町町宅之件」(文書・記録類、Ⅲ-154)の一部とされてきましたが、調査の過程でこれらが寛政2年(庚戌)8月に春水が杉ノ木小路の屋敷内に簡略な祠堂(しどう)を設営する際に、その工事を請け負った指物屋市郎兵衛(さしものやいちろうべえ)による領収書であることが確認されました。

屋敷内に設けられた祠堂には、先祖の神主(しんしゅ、仏教の位牌に相当)が祀られ、春水はそこで高祖父母から父母までを主たる対象とする厳格な儒教祭祀を定期的に執り行いました。



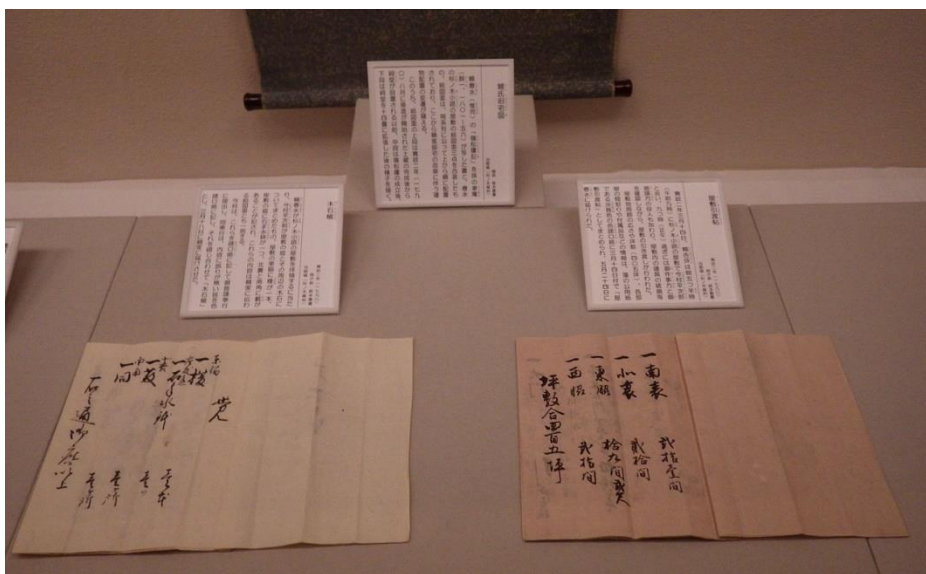
頼氏旧宅図(絵図類、Ⅰ-45-3)

○展示による情報発信

広島頼家関係資料の中には、広島藩庁内で作成され、頼家が授受した様々な公文書が残されており、その中には淡茜色(薄い赤色)に染められた文書が数多く含まれています。

広島藩では、享保6年(1721)に諸口紙(もろぐちし)と半紙(はんし)を淡茜色に着色したものを藩の公用紙とすることを定めており、県内の旧家に伝えられた文書群の中にも江戸時代後期から明治時代初めにかけて作成された淡茜色の文書(色諸口紙・色半紙)が多く含まれることが知られています。

当館では、文化庁の指導・助言のもと、資料の悉皆調査とともに、色諸口紙・色半紙の使用例について詳細な事例調査を継続しており、令和2年度の展覧会でもその一部を紹介しました。



企画展「広島頼家ことはじめ」(令和2年7月23日～9月13日) 展示風景

(左)木石帳と(右)屋敷引渡帖(文書・記録類, I-148-1・2)

頼春水が杉ノ木小路の屋敷を拝領するに当たり、前住人の今村平次郎は、屋敷の庭とその周辺の木石の数などを諸口紙に記して御普請奉行に提出し、御普請奉行はその内容に誤りが無い旨を色諸口紙に記し、それを今村の提出書類と共に綴じ合わせて「木石帳」とし、寛政2年(1790)3月18日に頼家のもとに届けました。画面左は、今村の提出書類の箇所に該当するため、藩の公用紙ではなく、通常の諸口紙が使用されています。

一方、画面右の「屋敷引渡帖」は、頼家への屋敷引渡しに当たり、御作事奉行と御普請奉行の名で、屋敷地周囲の広さと坪数(405坪)、各部屋の間取りや付属品などの情報をまとめ、5月24日に春水のもとに届けられた公文書で、藩の公用紙である淡茜色の色諸口紙に記されています。

このように、資料の紙の色や種類に注目することで、その資料の性格を窺い知ることができます。

これからも調査成果を、当館の展示などで随時情報発信してまいります。

制作：頼山陽史跡資料館